

# 国際的リーダー育成プログラム Leader's Camp を通して

広島大学大学院工学研究科 ○学生会員 上野耕平  
広島大学大学院工学研究科 学生会員 角 礼雄, Touch Narong, 岡村宏信  
東亜建設工業 正会員 小枝豪志  
広島大学大学院工学研究院 正会員 日比野忠史

## 1. はじめに

日中韓台4大学の協同により、グローバルな視野で社会基盤を考え、環境配慮型で災害に強い社会基盤を構築する技術を展開できる人材の育成を目的としてリーダー育成プログラム Leader's Camp を計画した。育成する具体的な人材像は、国際的な視野から将来の社会基盤のニーズを捉えることができ、地域及び地球規模の環境問題に配慮し災害に強い 21 世紀型社会基盤構築のリーダーとなりうる人材である。

Leader's Camp は、夏期休暇あるいは ICCEE 開催時期を利用して4大学持ち回りで実施し、特定テーマを題材に実施する 10 日程度の合宿形式の勉強会（単位2）として計画されている。テーマは土木・環境工学の中から毎年異なる分野で抽出する。今回のリーダー育成プログラムでは Leader's Camp が、毎年各大学が持ち回りで開催できる可能性を把握すること、毎年広大で実施した場合の負担等について検討することを副目的として行なった。

本年度は防災分野に関する基礎・応用知識、最先端技術に関する集中講義、関連する特徴的なプロジェクトの事例研究を合宿形式で実施し、最先端技術や高度化技術を体得させることを主題として実施した。

本報告では、学生が Leader's Camp を通して何を体験し、感じ、どう成長したのかという観点から学生がリーダーシップを発揮できる教育の場を計画するために必要な事項を検討した。

## 2. Leader's Camp への学生の取り組み

Leader's Camp への参加大学は、広島大学・日本（広島）、大連工科大学・中国（大連）、台湾国立中央大学・台湾、釜慶大学校・韓国（釜山）の4大学である。各大学からは各3名ずつが参加し、広島大学からは16名の学生が参加した。

### (1) Leader's Camp の背景（学生の理解）

表-1. Leader's Camp プログラム

日程	プログラム
1月10日	Opening ceremony
11日	Orientation
	Laboratory posting
	Lecture(1)
12日	Student workshop
	Lecture (2)
	Follow the program prepared by each laboratory
13日	Lecture (3)
	Student workshop
	Follow the program prepared by each laboratory
14日	Peace and culture education
15日	Peace and culture education
16日	Student workshop
	Lecture (4)
17日	Follow the program prepared by each laboratory
	Lecture (5)
	Student workshop
	Follow the program prepared by each laboratory
18日	Lecture (6)
	Presentation and Discussion
	Farewell reception
19日	Closing ceremony

国土の持続的発展には、安全・安心で快適な生活を支える効果的なインフラ整備・保全を進めることが必要である。一方で、多くの国でインフラ整備のニーズが拡大しており、土木界においても、産官学の連携のもと、海外の企業や技術者との協働を視野に入れつつ、国際的にその存在感を高め、発展を遂げて行かなければならない。特に国内の建設市場が縮小し、将来の展望が開けない状況にあって、技術力維持、技術者確保の面からも、海外のインフラ整備、国際交流に積極的

に取り組むことのできる国際的なリーダーの必要性が高まっている。そのためには国際的リーダーを目指した人材育成の場が極めて重要となる。また学術・教育分野にあっては、情報化に対応した発信力強化とグローバル化が進展する社会のニーズに応え、従来に増して国際的に通用する研究者、技術者の育成、国際教育プログラムの充実などが急務となっている。

**(2) 学生として理解した Leader’s Camp の目的**

第1回目となる昨年度のプログラムは、開催国である広島大学の学生自身がプログラムの目的を定め、第2回目以降のプログラムの進め方までを決定することを目標として実施された。

Leader’s Camp の目的は国際的なリーダーを育成すること、今後さらなる発展が予想されるアジアをリードする人材を育成するために、学生がリーダーシップを発揮することである。本企画では、学生同士が単に交流するだけでなく、自ら企画を計画・実施するという新しい試みが試され、著者らがリーダーとして本企画を指揮した。

**(3) Leader’s Camp での教育プログラム**

表-1 に Leader’s Camp の10日間にわたる教育プログラムを示した。プログラムは各参加大学から招かれた講師による講義の他は、全てが学生による企画となっている。特に Student workshop は、4大学の運営する ICCEE（国際会議）において学生が主体に企画する議論の他、今後の Leader’s Camp に関する議論の場となる。

また、文化交流を図るため平和・文化研修にも力をいれた。

Leader’s Camp の最終成果として最終日前日には Presentation & Discussion を学生独自で企画し、自由なテーマで各国混合のチームを作り発表会を行った。

**3. 主催学生としての意義**

プログラムの中で主催学生である筆者らが感じたことを中心に、プログラム詳細を振り返る。主催学生の Leader’s Camp 中での役割は表-2 にまとめた。

**(1) Student workshop (SW) の実行**

SW を Leader’s Camp のメインプログラムとして位置付けた。次年度の ICCEE で行なわれる WS のための準備を期待されていたが、今回の企画では、今後の Leader’s Camp の進め方を議論した。



写真-1 各大学教員による講義

表-2 主催学生の役割分担

小枝	Student workshop 総合司会, 全体指揮 (リーダー)
上野	Presentation&Discussion 司会, 全体副指揮
Touch	受け入れ態勢の調整
角	研修指揮
岡村	全体補佐

**(a) 学生組織**

主催学生の代表として小枝が、SW の総合司会を務めた (写真-2 上)。初日の SW において総合司会者の提案に依り、各国からの参加学生が持ち回りで SW の司会を交代して務めることを決定した。学生間の国際交流を図るため、全参加学生は出身国に依る班分けなどの組織化を行わず SW に臨んだ。

**(b) Leader’s Camp の意義**

本企画のスケジュールを自ら作成し、実行すること、各学生 SW において司会を交代で務めるようにし、統率力を身に付けることを目的として以下の①～④が挙げられた。①問題を発見・解決する能力、②意思を伝える能力、③統率力、④将来の国際的な人的ネットワーク形成

本企画において重要なことは、決められたスケジュールをこなすのではなく、自ら考え、実行することだと考えた。このように自らが考えることで、アイデアや意見が生まれ、議論する事ができた。特に、各 SW で司会を交代し務めた結果、司会を務めた学生は限られた時間である結論を出すことの難しさ、国籍の異なる学生を統率する能力や自らの語学能力を認識することができた。一方、司会以外においても、各司会のマネジメント力や手法を学ぶことができた。SW では、

英語での議論を基本としており、思い通りに意思を伝えられないという場面も多くあったが、実践を繰り返し試行錯誤することが重要だと感じた。しかし、これらを経験できる機会には限りがあり、このような機会を増やすことが必要だと感じた。

一方、今回は大学院生の他に4年生以下の学生にも参加を募ったが、その参加者数は4名であった。これらの参加者はプログラム前半では参加していたが、後半からは欠席しており、4年生以下の学生にとって自らの意思を発言することや英語での会話することに抵抗があるように思われる。しかし、国際的なリーダーへの意欲ある優秀な学生は少なくなく、こうした次世代を支援する場を構築することが、日本の土木技術の国際的存在感の確保につながると考える。より多くの学生にも自ら考え、行動すること、統率力や国際的な人的ネットワーク形成の場となる機会を与えることが課題として明らかとなった。

**(2) 研修の企画 (Piece & culture education)**

各国の学生が日本文化を理解させるために行なった平和と文化教育の対象として①宮島・厳島神社、②平和記念公園を選んだ。

**(a) 宮島・厳島神社**

文化教育の場として宮島・厳島神社へ留学生を案内した。留学生からの感想としては、「宮島の閑静で伝統的な神社建築の様式が美しい」、「山頂から見渡す海と山の風景が素晴らしい」、「厳島神社の鳥居の威厳さと美しさに感銘を受けた」など神社に加えて伝統的な参道のたたずまい、広島の良い自然も高く評価していることがわかった。

**(b) 平和記念公園**

平和教育として原爆ドーム・平和記念公園の見学を実施した。留学生の意見は、「原爆ドームは人々がこの惨劇を忘れさせないようにするものであり、広島の人々をより強くさせる」、「すべての子供達（もちろん大人も）は、この建築物を見るべき」という誠実なものであった。

留学生には公園内の全ての記念碑を周って見てもらった。世界に向けて人類の平和を願い、訴える目的と過去の過ちを繰り返さないために造られた公園であることを理解してほしいためである。広島平和記念資料館にも寄ったが、見終わった留学生の率直なコメントは「当時の様子の写真を見て、かなりショックを受



写真-2 Student workshop の様子

上：総合司会を務める学生、中：学生間での協議の様子

けた」、「とても悲しい」、「もし再びこのような壊滅的被害があるとしたら考えられない」など悲しいものであった。我々日本人としても、改めて原爆の虚しさを考えさせられる体験であった。

**(c) アンケート調査**

今回の研修終了後に留学生に対して、アンケートをとった。表-3にアンケートの結果を示した。研修先が最も点数が高く、ホストの選択が良好であったと考えられる。交通機関については、休日にもかかわらず市内の交通渋滞が全くない点が驚きであったという感想が得られた。一方で日程がタイトであったなどの反省点も挙げられ、このアンケート結果を今後の Leader's Camp に活かすことが重要である。

表-3 アンケート結果

person	A	B	C	D	E	F	G	H	I	Average
Time schedule	3	4	4	3	5	4	4	3	3	3.7
Sight	5	5	5	4	4	5	5	5	4	4.7
Food	4	4	5	5	5	5	4	4	5	4.6
Transportation	3	5	5	4	4	4	3	4	4	4.0

※Score 1 (terrible) - 2 (bad) - 3 (normal) - 4 (good) - 5 (excellent)

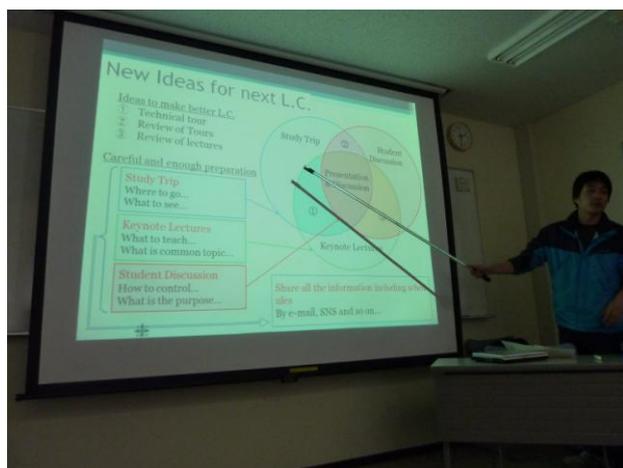


写真-3 Student workshop の様子

### (3) 最終発表会 (Presentation & Discussion)

司会の立場で Presentation & Discussion (P&D) を運営した筆頭著者上野の感じた事項を以下に示す。

#### (a) 計画と実行状況

P&D の実施について、発表内容は限定せずに自由なテーマで発表を行うこととしたが、Leader's Camp と関連した内容の発表とする条件を付けた。発表は班別としたが、班分けは学生間の国際交流を図るため出身国が同じにならないように心がけた。

各班の発表はいずれも本年度の Leader's Camp を受けて、感じた点などに重点置いたものであったが、土木を専攻する学生が集まっている中で、専門性を発揮した発表とならなかったことが反省点である。

#### (b) 司会者として運営して感じた事項

英語での司会となり不慣れな部分が多かったが、書記の学生に助けられながら司会を務めることができた。筆頭著者は全体指揮者の小枝から指揮権を委譲されることで意欲的に取り組むことができたが、司会者として他の参加学生に何かを任せるといことは少なく、一人で企画を指揮しようとしていた部分があった。司会者とリーダーとの間には仕事の分担による信頼関係が発生していたかもしれないが、司会者と参加学生の間にそのような関係はなく、参加学生がただ参加するだけになってしまった。その結果意欲を失い、参加率が低下するといったことが発生してしまった。自身が意欲的に取り組むだけでなく、他の参加者も意欲的に取り組める環境作りが重要であると感じた。

しかし、この反省こそが Leader's Camp の成果であるとも感じている。リーダーに求められる素養の一つ

に、他の参加者の意欲を掻き立てる環境を作り出すことがあるのだと学んだことが成果そのものである。次回の Leader's Camp では今回の反省を活かした参加の仕方を検討したい。

## 4. 学生がリーダーシップを発揮するために

### (1) 主催学生間での目的の共有

本年度の Leader's Camp において著者らは企画・実行を自ら行ったが、このためには目的の共有が必要不可欠であったと考える。今回著者らは、参加学生に滞在の中で深い議論と、文化・平和研修、講義等を含めた様々な経験をしてもらうという目的を持って日程を組み、企画を行った。この目的を主催学生間で共有することができたことが、学生が自ら Leader's Camp を企画することができた第一の要因であると考えられる。

### (2) 主催という自覚と責任の意識

Leader's Camp を進める中で著者らは、自分達が主催であるとの自覚を持ち続けることができた。一定の責任と権限を与えられているという意識は、リーダーとしての行動を自ら考えることに繋がる。すなわち、責任の意識を持ち企画の実施に臨むことがリーダーシップを発揮することに直結する。

## 5. おわりに

土木の国際的リーダーに必要なことは、技術力をしっかり身につけながら、国際的な場で統率力、マネジメント力を発揮することである。本企画は10日間と短かったが、国際的なリーダーになるために共に学び、実践する良い機会であった。